

◆「有馬家霊屋」国の重要文化財に

# 大名家霊廟の指定は九州初

## 久留米藩主を祭る霊廟

有馬家の菩提寺・梅林寺にある「有馬家霊屋」5棟が国の重要文化財に指定される見通しとなりました。有馬家霊屋は、江戸時代に建てられた、有馬家の歴代藩主の墓や位牌を納めた霊廟という建物です。大名家の墓所で当時の建物が残っているのは全国的にも



国重要文化財に指定される有馬家霊屋の一つ瓊林院位牌廟

珍しく、大名家霊廟として国の重要文化財に指定されるのは九州初。霊屋は、約400年前の建築当時の姿が良好な状態で保たれていて、歴史的価値が高く評価されました。

## 5棟からなる霊屋

有馬家霊屋は、5棟の建物が上下2段に分かれて配置。下段には藩祖則頼や妻、娘の墓が納められた「梅林院霊屋」と初代豊氏や二代忠頼などの墓が納められた「春林院霊屋」の2棟の納塔廟が並びます。上段には、初代豊氏などの位牌が納められた3棟の位牌廟があります。位牌廟には、金箔で飾られた壮麗な宮殿が納められています。

県内の建築物が国の重要文化財に指定されるのは40件目。市内では3件目です。◎文化財保護課(☎0942・30・9322、FAX 0942・30・9714)



春林院霊屋の内部。初代豊氏などの石塔が安置されています



位牌廟の中にある宮殿。内部に位牌が納められています

# 幻想的な光で街を彩る

◆光の祭典 ほとめきファンタジー

## 点灯は11月16日から

中心市街地をイルミネーションの光で彩る「くるめ光の祭典ほとめきファンタジー」を開催します。期間は、11月16日(金)から来年1月14日(木)までの60日間。明治通りの日吉町交差点から郵便局前交差点までと西鉄久留米駅東口広場を、幻想的な明かりが照らします。点灯時間は17時から24時までです。

## 応援バッジを販売

オリジナルサポーターピンバッジを販売。収益金は、イルミネーション設置費用などに活用します。西鉄久留米駅観光案内所や地場産くるめJR久留米店などで、1個1000円で購



オリジナルピンバッジデザインは一般公募で決定



明治通りの藤棚も光で彩られます(昨年の様子)

# くるめ学生通信

38

## 文化財保護の取り組み

市内の大学生が、久留米市の仕事などを取材し、学生目線で発信するシリーズです。今回の記者は久留米工業大学4年生の大神優佳さんです。

◎広報戦略課(☎0942・30・9119、FAX 0942・30・9702)



出土品の復元作業を体験。微妙な色の違いや、断片の形状をヒントに、つなぎ合わせます

吉野ヶ里遺跡周辺で見掛けるような発掘作業を、市内でも行っていると聞きました。久留米市の文化財を守る取り組みなどについて、文化財保護課の職員に話を聞きました。

## 文化財保護課って何を

文化財は国民共有の財産です。文化財保護法に基づいて、これまで伝わってきたものをできる限り後世に残せるように取り組んでいます。その一つが発掘作業です。久留米では、縄文時代から江戸時代まで幅広い年代の遺跡、遺物が発掘されています。

## どんなときに発掘するのですか？

発掘作業は、新しくビルや家などを建てる時、地中に埋まっている遺跡や遺物を傷つけてしまう可能性がある場合に行われます。しかし、その心配が無い場合は、発掘作業は行いません。

## 久留米ではどんな物

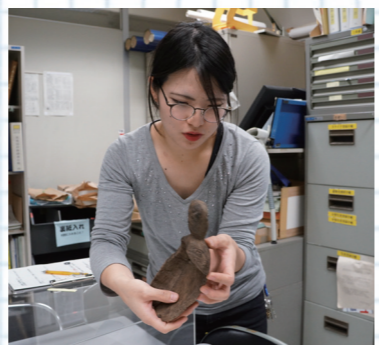
——久留米ではどんな物が出てくるのか。例えば、上津バイパス工事の事前調査では、縄文時代の人たちが、採集したどんぐりなどの木の实を入れていた編み籠が発掘されました。編み籠は、かざらなどで作られていて、本来は自然に返ってしまふもので



編み籠は、特別な薬剤で繊維を壊さないように復元したそうです

## 埋蔵文化財センター

発掘作業で出土した遺物の復元、展示を行っています。復元作業では発掘した土器などの破片を組み合わせていきます。破片は全てそろっている



縄文時代の人々が作った木製のスコップを実際に触らせてもらいました

わけではないので、足りない部分は石こうで埋めながら復元していきます。答えの無いパズルのようなものですね。そうして復元された物を展示して、市民の皆さんに紹介しています。

——教科書でしか見たことのないような土器を初めて身近に見ました。普段何気なく生活している地面の下に、こんな物が埋まっているなんて思いもよりませんでした。

また取材の際、文化財保護課と埋蔵文化財センターの職員の方が遺跡や遺物に対して熱く語られていて、終始圧倒されていました。私もこんな風に情熱を持って仕事をしてみたいと思いました。